

## 創立二五周年と

### 石桜図書館の竣工

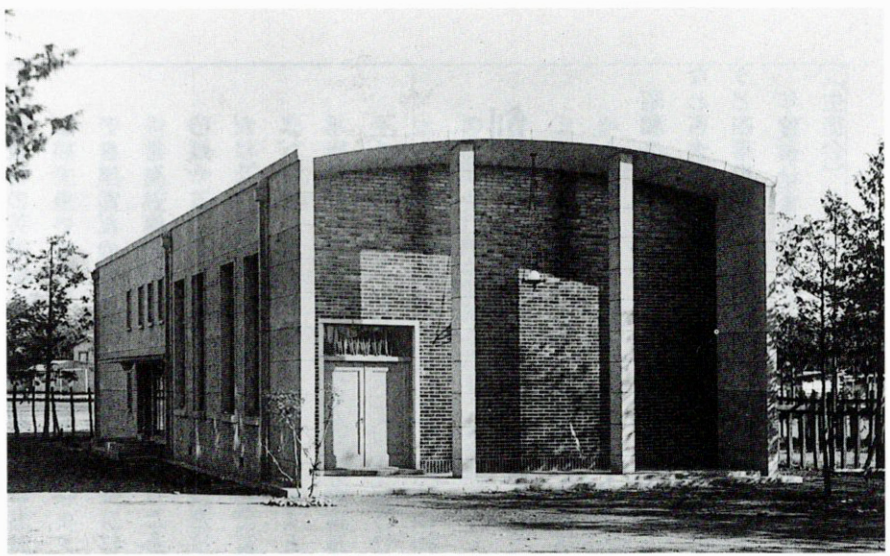
昭和二六年は本校が創立されて二五周年、すなわち大正一五年に岩手中学が設立されてちょうど四半世紀が経過した年であった。

年度が始まるとともに、学校当局も石桜会（生徒会）もともに創立二五周年を盛大に祝お

うと準備に取りかかった。具体的には、恒例の運動会や文化祭をすべて創立二五周年記念行事の一環として行なうこととし、また儀式として創立二五周年記念式典を開催することが決定された。

記念行事の幕開けは、一〇月二三日、本校校庭で挙行された運動会であった。また一〇月二六日から三〇日まで校内体育大会が催され、いずれも盛会裏に終了した。

中心行事である創立二五周年記念式典は、一月三日の文化の日、当時東北一を誇っていた本校講堂で厳かに執り行なわれた。定刻の午前九時に開会となり、国歌斉唱ののち、三田義一理事長と佐々木哲郎校長の式辞に続いて永年勤続者の表彰が行なわれ、講堂は万雷の拍手でわかえった。さらに来賓ならびに生徒代表が祝辞を述べ、祝賀式典は厳肅にかつ滞りなく終了した。



東北一といわれた新築の図書館(昭和30年)

なお、一月三日と四日の二日間にわたって記念文化祭が開かれ、各種の展覧会や劇・音楽などが一般公開された。とくに音楽ではグリーンクラブによる「二五周年祝典カンカータ」の合唱が慶祝の雰囲気を大いに盛り上げた。

三田義一理事長は、前述の式辞のなかで「ここに創立二五周年を期し、記念図書館の建設を企図し、もって将来の進展に備えますことを誓うものであります」と所信を表明し、この決断は教職員や在校生はもちろん、卒業生にも大きな喜びをもって迎えられた。

昭和二八年五月に奉安殿跡の建設予定地で地鎮祭が執り行なわれ、以後着々と工事が進められて鉄筋コンクリート二階建ての建物が次第にその偉容を現していった。

二〇〇平方メートル余りの一階に閲覧室・書庫・特殊教室などを設け、二階は書庫にあてるといふ設計であった。そして翌二九年三月三十一日に建物が完成、準備期間を経て、同年九月一

三日に待望の開館の日を迎えた。名称は「石桜図書館」に決まった。

初めて館内に入った生徒たちは、近代感覚のみなざる構造・設備・書庫・カウンター、また豪華なベルギー製ガラスのはまったドア、ドイツ製の時計などを目を見張った。

一高校がこのように立派な独立図書館を持つ例は国内でもなかっただけに、誰もがその誕生に誇りを感じた。

この石桜図書館の建設に要した費用は建築費四八〇余万円、設備費一一〇余万円、計五九〇余万円であった。このうち、四五〇万円を理事長が寄付、残りを岩手奨学会と父母が負担し、県からも助成金が出た。ほかに図書購入費として年間一〇〇万円以上の予算が組まれたが、これは高校としては県下の最高額だった。

勉学の面でも、余暇の充実の面でも、石桜図書館の完成が本校生徒の学園生活にもたらした恩恵は計り知れないものがある。